

第2回 芳ノ元トンネル施工検討会
議 事 概 要 (速 報)

○日 時 平成23年 2月23日(水) 13:00~16:30

○場 所 宮崎河川国道事務所 1階大会議室

○出席者

- ・委 員 横田委員長、瀬崎委員、真下委員、藤澤委員
- ・オブザーバー 宮崎県、宮崎市、日南市
- ・事務局 九州地方整備局 宮崎河川国道事務所

○議 事

1. 開 会
2. ボーリング結果の確認
3. 議 事
 - ・地すべり調査の進捗状況
 - ・地すべり調査結果の中間報告
 - ・今後の調査について
4. その他
5. 閉 会

○審議結果

事務局より、「調査の進捗状況」、「調査結果の中間報告」、「今後の調査」等について説明し審議を行った。

審議結果は下記のとおり。

- ・ ボーリング調査は、12月から調査を開始し、これまで予定している57本のうち19本を完了(最大深さ約110m)。
- ・ また、19本のボーリング孔には、孔内傾斜計を設置し、地中の挙動を経過観測している。
- ・ これまでの調査結果から、地表から最大約90mの深さ全域で地すべり面となる可能性がある弱い破碎帯である砂岩頁岩混在層(乱雑層)が存在することが判明。
- ・ 但し、これまで実施した調査による結果だけでは、どの深さが地すべり面となりうるかを特定することは困難。
- ・ よって、今後実施するボーリング調査及び孔内傾斜計による地中の挙動観測結果等をもとに、判断すべきである。

芳ノ元トンネル施工検討会 委員・アドバイザー名簿

委 員

- よこた ひろし
◎横田 漢 宮崎大学 国際連携センター 地盤環境保全研究部門 特任教授
- 瀬崎 満弘 宮崎大学 工学部 准教授
- 真下 英人 独立行政法人土木研究所 道路技術研究グループ グループ長
- 武士 俊也 独立行政法人土木研究所 地すべりチーム 上席研究員
- 藤澤 和範 NEXCO総研 道路研究部 土工研究室 砂防研究担当部長

オブザーバー

- 渡辺 学 宮崎県 県土整備部 高速道対策局長
- 浜崎 和男 宮崎市 建設部長
- 野邊 泰弘 日南市 建設部長

※◎印：委員長

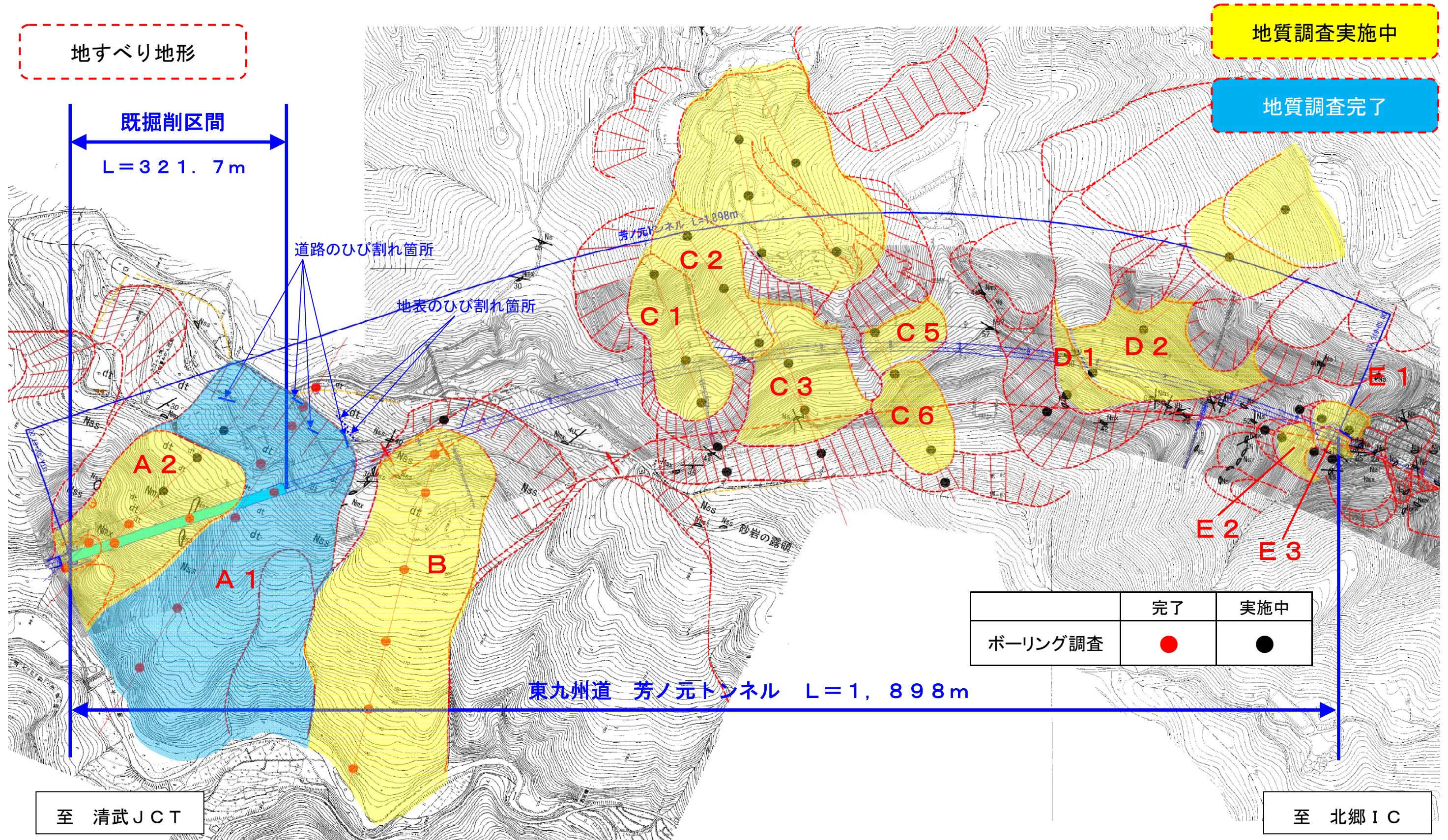
(敬称略)

以 上

● 東九州道 芳ノ元トンネルの地すべり調査状況

1. 地すべりの可能性がある箇所

地すべりの可能性のある箇所を抽出するために空中写真による地形判読と現地踏査を実施した結果、芳ノ元トンネル周辺に地すべり地形を有する箇所を13箇所確認した。



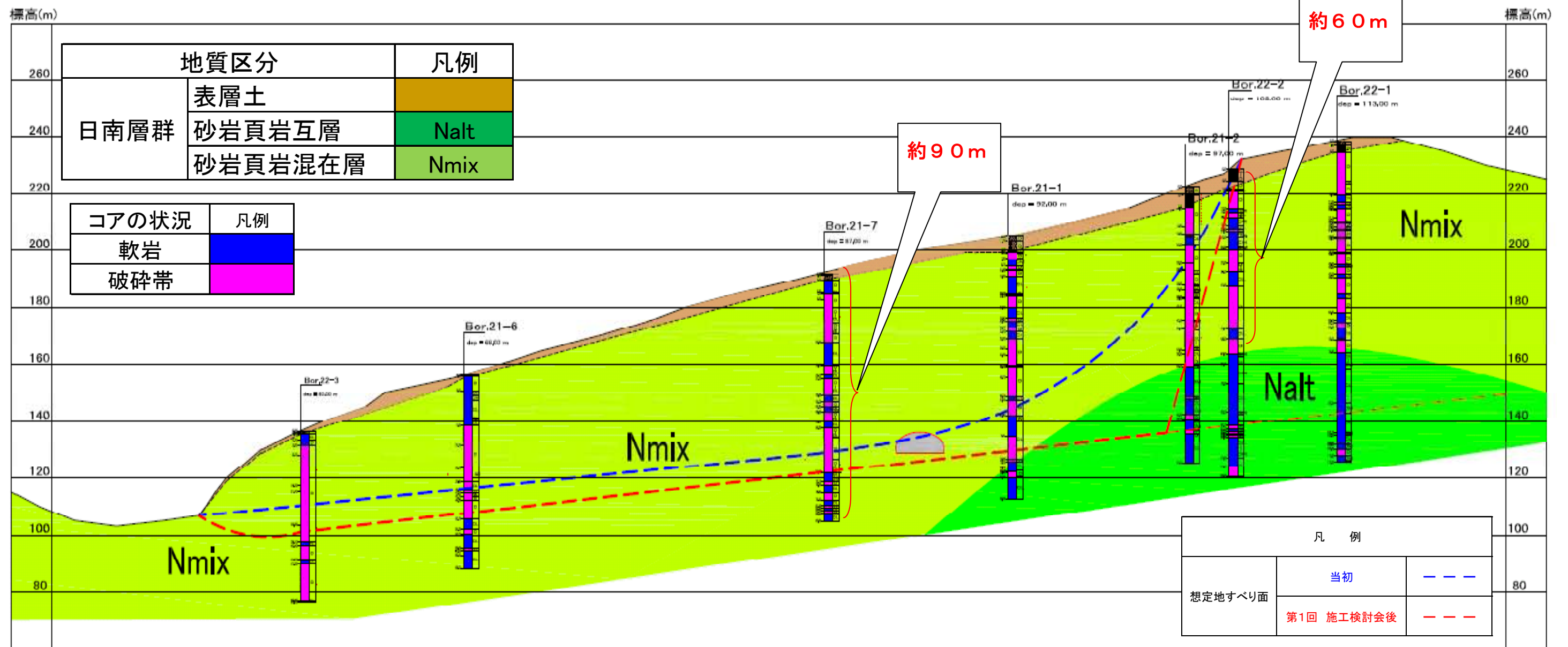
2. ボーリング調査から推定される地質状況

地すべり地形を有する13箇所について、これまでボーリングを計19本（最大深度：約110m）実施した。そのうち、ボーリングが完了したA1ブロックの調査結果は、以下のとおりであった。

- ・地表から最大90mの深さ全域で、破碎された砂岩と頁岩を確認した。
- ・Bor21-1～Bor22-1の深部は、比較的堅硬な砂岩と頁岩の互層を確認した。

以上のことから、地表から最大90mの深さ全域に、地すべり面となる可能性を有する弱い破碎帯である砂岩頁岩混在層（乱雑層）が存在すると考えられる。

A1ブロックの地質断面図



3. 地質調査結果からの地すべり面の特定

- ・ 想定すべり面（朱線）付近は、破碎された砂岩頁岩混在層が殆どを占める。地すべり面となる可能性がある弱い破碎帯が大半を占めることから、地質状況だけですべり面を特定できない。
- ・ 従って、地質状況からの地すべり面は特定できず、地中挙動観測の結果をもとに地すべり面を特定する。

ボーリングコアの状況（Bor. 21-2）

破碎帯
(砂岩頁岩混在層)

軟岩
(砂岩頁岩互層)

